

ふれあい曾山医院

志筑1391-9
Tel:62-5566

2014年7月号
(第91号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



敦子 成氏
近博子 陽子
西岡 赤松 眞巳
福井 尚
谷岡

C型慢性肝炎

C型肝炎と聞くと「治らない、移る、治療が困難」と想像します。現在日本中でC型肝炎の患者様は約百五十万人〜二百万人いると考えられています。しかし感染している事が判っていても治療せずに放置している人や感染している事を知らずに過ごしている人も多いのが現状です。

【C型肝炎】

C型肝炎とはC型肝炎ウイルス(HCV)の感染により起こる病気です。感染当初は急性肝炎になり、そのうち六〇〜八〇%が慢性肝炎へ。二十年后には慢性肝炎の患者様の三〇〜四〇%の人が肝硬変に進行。三十年後には肝硬変の患者様のうち七割が肝臓へと移行すると言われ、実際、年間三万人が肝臓で亡

くなられています。

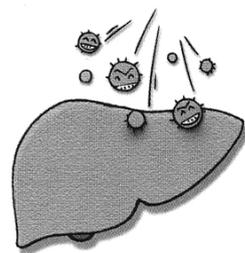
C型肝炎(以後HCV)の感染経路は血液を介して感染します。普通に生活している上では感染はありませんが、HCVに感染した人の血液の輸血や血液を使用した薬、HCVに感染した人が使用した器



材を適切な消毒をせずに使用する刺青やピアスホールなどで血液を介して感染します。普通の生活の場では感染は殆どないと言えます。だから、握手や食器の共用、一緒に入浴などでは感染しません。

【肝臓とは】

では、肝臓はどのような臓器でしょうか？肝臓は人が生きていくために無くてはならない臓器の一つです。その働きは大きく六つあり、栄養分(糖質や蛋白質、脂肪、ビタミン)を生成や貯蔵に代謝を行い、血液中のホルモンや薬物、毒物等の代謝と解毒。体に侵入したウイルスや細菌の感染防御を行い、出血を



止めるための蛋白の合成。消化に必要な胆汁の生産と胆汁酸の合成等の生きていくために必要な働きをしてくれる臓器です。また肝臓は一部の細胞が壊れてしまっても代わりになる細胞が働く予備能力が高い臓器です。そのため「沈黙の臓器」とも呼ばれています。だから慢性肝炎や肝硬変になっても自覚症状が出ない為、気付かずに病気が進行してしまうという事が起きてしまうのです。しかし全く自覚症状が無いと言う

【早期発見】

C型肝炎の早期発見は、まず感染していないか調べる検査が必要です。HCV抗体検査で感染しているか調べることが出来ます。この抗体検査で陽性の人には「現在もウイルスがいて持続感染している」人と「以前感染したが、治癒してウイルスがない」人に分かれます。持続感染して

わけではありません。「なんとなく体がだるい。疲れやすい。食欲がわかない。最近顔が黄色い。むくみが出てきた」など曖昧な症状があります。ほとんどの方は症状が無く、肝臓が出来ても気付かずに過ごされるケースもあります。

いる人はより詳しく血液検査でHCV RNA検査を行いHCVの種類を調べます。

治療(インターフェロン)が効率よく効果するかの判別などさらに詳しく調べたりします。以前は、インターフェロン療法は高額でなかなか治癒しない、という印象があります。近年、医療費助成事業も開始されています。健診も必要ですが、まず、肝炎ウイルス検査をしてはどうでしょうか？(看護師 藤島 敦子)

